

## 資 金 会 計 理 論

### I 目的の相違

1. 制度会計 (税務会計) 納税の基となる数値を算出するための会計  
減価償却費 車両は（普通乗用車）6年で、  
鉄筋の建物は（事務所）50年
2. 資金会計理論 継続企業を前提として、企業を発展させるための  
会計
3. 当期利益 会計処理によっていくらでも変えることができる  
又，作成する人によっても変わるもので，不変の数値  
ではない

## Ⅱ 4つの資金

1. 損益資金とその他の資金
  - 損益資金
  - その他の資金    固定資金
  - 売上仕入資金    (安定資金)
  - 流動資金
2. 科目            すべての現金の残高    その属性を表わす
  - 手元にある内部現金
  - 企業外にある外部現金
3. 取引            商取引に限定し、すべて現金取引とみなす
4. 利益            利益とは自由に使える現金
5. 財政状態       現金の廻り具合
  - 資金バランスが重要
6. どの資金で調達し、どの資金で運用しているか？
7. 損益資金       絶対に+でなければならない
  - △はその企業の商品・サービス等すでに衰退して
  - いる
8. 固定資金       長期の運用・調達する資金
  - これもその企業等の業態によって+であったり、
  - △であったりする    成長期の企業は△が多い
9. 売上仕入資金    (継続企業を前提とする場合+は損益資金と同じ性質を有する)
  - その企業の持っている性格によって決まる
  - 業種等を変更しない限り変えようがない
  - 従って、一概に+がよく、△が悪いとは言えない
10. 安定資金       必ず+でなければならない
  - 継続企業を前提とした場合は、この安定資金が企業
  - 開始から現在までの利益又は損失
11. 資金バランス    どの資金で調達し、どの資金で運用しているか
  - このバランスが重要である

# 勘定科目と資金

次の例題で自己資本比率をそれぞれ計算してみてください。この3つを見比べると、この中で一番よい財務状態及び財務体質の表があるはず。良くない場合の問題点と共にお考えください。

## 例題1

①	現	金	1000	資	本	金	1000
②	仕	入	4000	買	掛	金	3000
③	売	掛	金	6000	現	金	1000
④				売	上		6000

例題1		資金別貸借対照表		平成 年 月 日現在	
現金預金		(損益資金の部)			
	仕入		売上		
		(固定資金の部)			
			資本金		
		(売上仕入資金の部)			
	売掛金		買掛金		
	安定資金計				
		(流動資金の部)			
	現金預金				(単位：千円)

## 例題2

①	現	金	1000	資	本	金	1000
②	仕	入	4000	買	掛	金	4000
③	現	金	6000	売	上		6000
④	設	備	5000	現	金		5000

例題2		資金別貸借対照表		平成 年 月 日現在	
現金預金		(損益資金の部)			
	仕入		売上		
		(固定資金の部)			
	設備		資本金		
		(売上仕入資金の部)			
			買掛金		
	安定資金計				
		(流動資金の部)			
	現金預金				(単位：千円)

例題3

①	現金	1000	資本金	1000
②	仕入	6000	現金	1000
			買掛金	5000
③	現金	2000	売上	6000
	売掛金	4000		
④	商品	2000	仕入	2000

例題3 資金別貸借対照表 平成 年 月 日現在

現金 預金	(損益資金の部)		
	仕入		売上
	(固定資金の部)		
	商品		資本金
	(売上仕入資金の部)		
	売掛金		買掛金
	安定資金計		
	(流動資金の部)		
	現金 預金		

(単位：千円)